



松くい虫被害地の再生（渋川市）

○参考（作業状況）



5 成果

- ・ 平成28年度内に826haの森林整備を実施しました。  
（内訳：平成27年度繰越事業543ha、平成28年度事業283ha）
- ・ 計画的な森林整備を推進するため、1,779haの区域調査（平成27年度繰越事業571ha、平成28年度事業1,208ha）を優先して実施した結果、約1,400haの森林について協定が締結され、森林整備の準備が整いました。

## 6 課題・方向性

- ・ 調査対象箇所が小規模分散化してきており、調査対象となる森林所有者数も多くなっていることから、区域調査においては森林所有者や境界の特定、実施計画書調査においては、測量に多大な時間がかかっており、早期の森林整備の発注に支障をきたしています。  
承諾の得られた森林所有者の周辺の森林所有者にも事業の説明を行うなど、集約化の推進を図ります。
- ・ 不在村森林所有者の増加等により、森林境界や森林所有者の特定が困難な状況にありますが、引き続き市町村の個人情報保護条例及び林業担当部署と連携・協力し、また、今後作成される林地台帳を活用し、森林境界と森林所有者の明確化に取り組んでいきます。
- ・ 奥山での作業箇所や小規模で分散した作業箇所が多く、作業効率が向上しないため、これまで以上に労働力が必要となってくることから、受注者に対し、新規就労者の雇用促進や下請として協力会社を活用するなどの指導を行っていきます。
- ・ 過密林を間伐することにより、野生獣が整備後の森林に進入しやすくなり、地域によっては皮剥等の被害が発生していることから、皮剥を防止するための資材等を残存木に設置するなどの対策を行なっていきます。
- ・ 区域調査委託による受注者からの説明では理解を得られず、協定が締結できなかった森林所有者については、引き続き担当職員と森林組合の担当者が連携・協力を図りながら、森林所有者への説明を行うことで、協定締結の推進を図ります。
- ・ 平成28年度は、平成27年度繰越予算分として543ha、平成28年度分予算として283haの森林整備を実施しました。区域調査を先行して実施してきたため、繰越は対前年比73%と減っていますが、依然として繰越が多い状況となっていますので、繰越箇所の早期完成及び繰越解消に向けた早期の森林整備の発注を行います。

## 7 実施状況の評価（評価者：県）

- ・ 平成28年度予算での森林整備目標790haに対し、約682ha（年度内完成283ha、繰越399ha（稼働中））の森林整備を行います。  
区域調査・実施計画調査を先行して実施したために、目標達成には至りませんでした。繰り越しの解消に繋がる結果となりました。
- ・ 担当職員と森林組合の担当者が連携・協力したことにより、区域調査における協定締結の推進が図られました。
- ・ 担当職員を対象とした選木技術の向上を図るための現地研修を実施し、気象災害を受けにくく、公益的機能が向上する森林整備の推進が図られました。